

グループホームひまわり

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3472700297		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地 (電話番号)	広島県廿日市市宮内字佐原田4207番地の4 (電話) 0829-38-0793		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年5月18日	評価確定日	平成19年5月29日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	8.0

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造	造り
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(135,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広島県厚生農業共同組合連合会広島総合病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひまわり」の母体は医療機関で、同一敷地内には医療機関及び介護老人保健施設等を有している。ホームの職員は、理念に基づいて入居者が地域の中で暮らし続けることを支援しており、チームで支えていく体制が構築され、また、併設・関連施設や外部で行われる研修には、職員は積極的に参加をしており質の向上のため取り組んでいる。ホームでは、地域・家族等との安心と信頼に向けた関係づくりと支援を日々目指しており、職員は常に問題意識を共有しながら自信を持ち、明るく、元気で行動をしており、入居者の方々の安心した笑顔が印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、入居者の方のお小遣いの管理について規定通りに行われているが、家族への報告をより明確にすることとされていたが、その後の対応として家族の来所訪問時に納帳の確認をしていただくなど、その時点に応じて押印若しくはサインをお願いし報告済みの無い体制作りがされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は、自己評価を理念の実践に向けての更なる向上のための課題や、現状の見直しとしての位置づけと理解しており、ミーティング等の機会を捉えて活用し、話し合っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、ホームから地域との関わりを含めた現状報告や、介護保険制度等について詳細に説明を行ったり、また参加者にはホームとの関わりを積極的に推進していく方策などの前向きな意見交換の場とされている。これらの回数を重ねることによって、地域での理解も深まり、協力も得られて方策を講じている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情等については、全職員が共有し、問題点やあり方などについては直ちにミーティング等の機会を捉えて話し合いを行い、これらの対応や改善に向けて取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの近隣の方から季節の野菜などの差し入れや、ホームや併設施設の職員などの友人、知人などがボランティアとして来所訪問されたり、また日常生活の中で散歩や買い物に出かけるなどの支援を行い触れあいを推進している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員で協議の上で自ら作りあげ、地域密着型のサービス施設としての将来の役割を目指した内容となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念については、全職員で地域生活での継続支援を支える指針としており理解共有した行動としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から季節の野菜等が差し入れられたり、また散歩や買い物及び美容院等に出かけた時は気軽に挨拶を行い、地域との繋がりを深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目については、全職員が理念の実践に向けての取り組みの指針とし、これらを見直しの機会と捕えて理解と活用に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、ホームからの報告とともに参加者からの質問や意見、要望を受けて話し合い、これらをサービスの向上に向けての積み上げとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月一回は、地域の中の市の介護相談員が来所訪問され、運営推進会議へも市の担当者が出席するなどし、情報交換を深めながら質の向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや、家族の来訪時を捉えてホームでの暮らしぶりやエピソードなどを、家族に詳細に伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回は、事業所の母体で実施しているご家族へのアンケートの回答内容や、来所時に出された意見、要望などは改善策を含めて提示し、運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し異動や離職が発生した場合は、その時期や引継ぎの面で最善の努力と配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を設け、日常においてはOJT教育やコーチング等の研修を行いながら質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や他のグループホームとの交流会の機会を設けて、情報交換などを行い質の向上を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、可能な限り来所していただき事前にホーム内や他の入居者及び職員に徐々に馴染めるようにし、また家族には納得いくまでホームの理念やサービスの質を確認していただく取り組みをおこなっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意分野で力を発揮してもらい、職員は学びの気持ちを大切にしながらお互い様という気持ちや、感謝するという関係作りに取り組んでいる。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声を掛け、把握に努め「私の姿と気持ちシート」に記入をし、全職員が把握できるようにして、これらをカンファレンスで活かしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族や関係者の気づきや意見、アイデアを反映しながら本人本位の計画作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族、関係者らが話し合う機会を作り、その時々での気づきや意見交換を最大限反映させながら見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望により、併設の医療機関でのリハビリに通所すると共に、他の医療機関への通院及び送迎等の必要な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族等の納得を得られる対応ができるように十分な話し合いを行い、また受診結果に関する情報の共有化ができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法についてチームで話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に努め、機密保持の徹底が図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ物を一緒に楽しみながら食べ、時には一緒に採って来た畑の野菜などの食材を使って一緒に調理をし、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向にそった入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の暮らしの中で出来ることを初めとし、また地域の公民館で行われているコーラスへの参加、個々の趣味に応じた活動を積極的に支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩だけではなく、馴染みの店や場所に出かけており、また車や車いすを利用しての外出も積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出ていく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーを行って、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回は入居者とともに避難訓練を行っている。また、災害時の水や食料などの備蓄品は、併設施設で一括して管理・保管されている。		ホームの入居者の方の避難誘導順番を予め決めておいたり、また災害時における職員の行動などを図上演習で行って、日頃からの意識付けを今以上に図られることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、また一日全体を通じた食事量・バランス、水分量の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前に、入居者の家での過ごし方や馴染みのものなどを知り、それらの情報を活かしながら、居場所が心地よく過ごせるように取り組んでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を確認しながら、職員がその人らしく居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームひまわり 1階

事業所住所 広島県廿日市市宮内字佐原田 4207 番地の 4

記入年月日 19 年 3 月 30 日

記入者 職 ホーム長 氏名 友田 千恵美

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念とグループホーム独自の理念を共に作りあげて提示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	月2度の朝礼時に職員で唱和し全職員理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方々などは面会時の時報告をしてその人らしく生活を送って居る事などを伝えている。関連施設に広報誌を置いたり、公民館などの活動にも参加している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出時に地域の人達に積極的に声を掛け、行い、また美容院や買い物の時などにも気軽に挨拶などを行うよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	公民館、サークルの参加やとんどや祭りなどにも参加して交流を努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域活動の情報を収集し、活動の中に参加できそうな事や何か役に立てる事はないかなど話し合いはできている。		6/10第1回法人の健康フェスタ予定しており、その中で販売に利用者と共に参加、手伝いしてもらい地域との交流を図る。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が理解し、評価を活かし目標、反省、改善をして取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、サービス状況についての報告や話し合いはできしており、挙げられた意見を改善し、サービスの向上に向けて努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月に1回、市の方より、相談員がホームに訪問され、情報交換などを行い、サービス向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	全職員、研修等に参加し、理解して個々の必要性について話し合いをしている。(過去に1名成年後見制度利用あり)		研修参加者が不参加の者へのフィードバックに努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などに参加して、日々、観察などをして、見過ごさぬ様注意し、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用様や家族様と良く話し合いを十分に行い、納得してもらう様に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日常の会話で不満や苦情を聞いたりして、市の相談員が訪問して、外部署にも伝えられる様に機会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には必ず報告している。定期的に新聞を送付したり、変化があれば随時電話で報告、相談している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回法人でアンケートを出して、その結果を提示して改善策も提示している。面会時などにも不満はないか聞く様にしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、気になる点があればカンファレンスや連絡ノートを利用したり自己評価時の面接など機会は設けられている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要時には職員を確保できる様に調整がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>定期的に運営者は話し合いを行っており必要最低限に抑えられている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>コーチング等の研修を行い、育成する為に積極的に取り組んで行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流会の機会を設け、情報交換などを行い、サービスの向上に努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>誰でも相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>実績や勤務状況などを把握されており人事考課なども行い、各自向上心を持って働き掛ける様に努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>初期の面接より十分な説明や相談ができるようにし、納得してもらうように対応ができる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接時には必ず様子を伝えると共に家人の不安や意向があれば話し合いを持っている。年に一度は家族会を開催している。		家族の方々は日頃遠慮されて本心が言えない部分もあるかもしれないので少人数の職員と入居者の家族様との話し合う場を近々持ちたいと思っている。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談員に相談したり、カンファレンスを行ったり早めに対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族様、入居者様とよく相談をしながら、いつも使い慣れている物などを使ってもらい、心地良い雰囲気を大切にしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、買い物、洗濯など一緒に行っている。職員はサポートする側で見守りや声掛けなどをして入居者様を支えあえる関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族様の意向も大切に入居者様を支えていく関係を築いている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	暮らしの情報などを利用したり、カンファレンスで話し合いを持ったり、より良い関係作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家人、知人の面会時、情報を聞いたり昔の写真を持って来てもらったり話をしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクに参加してもらったり散歩やドライブに行ったり一緒にケーキ作りをしたり誕生日には皆で祝ったりしている。寄せ書きもしてもらっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居様様が体調不良で入院された方にはお見舞いに行ったり関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話から思いを引き出し聞き取ったことを「私の姿と気持シート」に記入し職員全員が記入し把握できる様にしてカンファレンスを開いて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	「暮らしの情報」を作用して職員全員が把握できるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活は行動記録に記入して、必要時には心身の情報用紙も利用して把握するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者を決め、本人、家族の方の希望を取り入れ、カンファレンスで職員が話し合い作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月ごとにプランを作成しているが、変化が生じた時は、その都度プランを見直し立て直している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録はしっかりと出来ており、変化のある時は青線を引き職員間の申し送りをしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人の要望に応じ併設病院でのリハビリなど利用し支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方の来居もあり地域資源との協働ができている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	相談員、ケアマネージャーとも相談し支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の意向や必要性に応じ地域包括センターと協働できている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっている。(内科、神経科)他希望される病院への希望あれば職員が付き添い受診する。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院で受け入れてもらっている常に相談できる状態を保っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員と相談しながら支援している。1日1回訪問あり状態把握されている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に行き、家族の方や病院関係者より経過を聞き退院に向けての話し合いをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>早目に家族の方へ報告し医師を含め、話し合いをしている。方針は全員で共有できている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>職員内の話し合いもできており、また医師と家族の面談により終末期へ向けてのケアの対応を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族を含め関係者間で十分な話し合いや情報交換を行いダメージを防げるよう勤めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者さんに合わせた言葉掛けや対応をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆっくりと話し合う事により、希望を言える支援しているが、最終決定は入居者さんに委ねている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者さんのペースに合わせた声掛け対応している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	化粧をしてもらったり、近くの美容院へ行ってもらっている。なじみの関係ができています。		地域の方との関わりの一つとし今後も継続していく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを入居者さんと考え一緒に準備、片付けをしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	時間を決めて楽しめるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	早目の声掛けを行い、失敗を防ぐようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望に合わせて時間を決めず入れるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者さんの生活習慣に合わせて支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	趣味などを生かし個別に支援している。家事全般ほぼ役割ができています。楽しみごとの一つとし公民館へのクラスもその一つである。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は金庫に預かっており、外出時は持ってもらい自分で買い物してもらっています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	鍵はかかっておらず、自由に出入り出来るようになっている。畑や近隣を散歩されている。		気候の良い季節にはなるべく外出を取り入れるようにしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族の方の協力を得て外出されている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	友人との手紙のやりとり、家族の方への電話はされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は部屋でゆっくりと過ごしてもらえようお茶などを出し、入居者様と団欒してもらおう様にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら安全に生活してもらう様支援している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一律になくさず、その人の状態に応じて職員同士が話し合っ、本人納得の上で危険防止に取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修など参加し事故防止に取り組んでいる。		定期的に研修に参加し事故防止に取り組みたい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	研修など参加しているが定期的でない。		定期的に行ってほしい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時のマニュアルはあり定期的に話し合いはしている。		入居者を含めて避難訓練を今後行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	日頃より面会時等家族に状況報告し、その方に合った生活を大切にしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックし体調の異変があった場合は速やかに対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の用法・用量は理解しており服用後の様子観察も出来ている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個人々の排便確認は毎日している。予防の為の様々な工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの声掛け介助を行っている。		嚥下状態をいいものに保つようにより一層の口腔ケアをしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量、バランス、水分量の支援をしている。(ひとりひとりに合った)		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応のマニュアルがある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常に台所の衛生管理には気を付けており食材の管理にも努めている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花などを植え環境づくりに努めている。		花壇作りなどもう少し入居者を混えて行っていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール、洗面所、玄関などに季節の飾り物や花など生けたり換気にも気を付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとり居心地の良い場所となるように工夫をしている。畳利用一人で昼寝のできる場所、玄関にはベンチ設置。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人、家族の希望をとり入れ、以前から使っていた家具などを使用している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気には常に配慮している。湿温計設置し管理調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家具の配置など状況に応じて安全に気を付けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりに合った活気あり穏やかに生活できるように取り組んでいる。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑作りを入居者と共に行っている。		もっと楽しんで入居者の意見など取り入れて行いたい。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームひまわり2階

事業所住所 広島県廿日市市宮内字佐原田4207番地の4

記入年月日 19年3月30日

記入者 職 ホーム長 氏名 友田 千恵美

目 次

<ul style="list-style-type: none"> 理念に基づく運営 1 1 理念の共有 1 2 地域との支えあい 1 3 理念を实践するための制度の理解と活用 2 4 理念を实践するための体制 2 5 人材の育成と支援 4 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 4 1 福祉から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 5 その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 6 1 一人ひとりの把握 6 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し 7 3 多機能性を活かした柔軟な支援 7 4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働 7 	<ul style="list-style-type: none"> 1 1 1 2 2 4 4 4 5 6 6 7 7 7 	<ul style="list-style-type: none"> その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 9 1 その人らしい暮らしの支援 9 (1) 一人ひとりの尊重 9 (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 10 (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 11 (4) 安心と安全を支える支援 12 (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 13 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり 14 (1) 居心地のよい環境づくり 14 (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 15 サービスの成果に関する項目 16
---	--	---

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	----------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人としての理念、グループホームとしての理念を共に作りあげ提示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員で唱和し、全職員で理念を共有し実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	関連施設に広報誌を置いたり、公民館などの活動にも参加したりし、家族の方にも面会時に報告などし理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域資源をもっと活用して地域の人々にもっと理解して頂きたい。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方に畑仕事で作業中に色々教えてもらったり散歩中挨拶したりしている。町内会の方に祭りの時など声掛けてもらって頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	公民館活動の参加や近所の美容院の利用など地域の人と交流できるよう努めている。		地域行事の参加が減っているので参加したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域活動の情報を収集し、活動の中に参加できそうなことや何か役に立てることはないかなど話し合いはできている。		6/10 健康フェスタを法人で予定しており、販売など利用者さんの参加も考えている。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員理解しており評価を活かし目標、反省、改善がなされるよう取り組んでいる。		地域との支え合いに力を入れたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にてサービス状況についての報告や話し合いはできており、挙げられた意見を改善しサービス向上に向けて努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月に1回市より相談員がホームに訪問し情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等の機会があれば参加し理解できるよう学び、個々の必要性について話し合いできている。		全職員が研修に参加できているわけではないので全職員が学べるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等の機会があれば参加し見過ごされる事のないよう注意し防止に努めている。		全職員が研修に参加しているわけではないので全職員が学び防止に努めていきたい。またフィードバックし徹底していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時は相談員及び管理者共に十分な説明を行い確認し納得を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日常の会話の中より不満や苦情を聞くようにしている。また、月1回市の相談員訪問あり外部の方にも伝えられるよう機会を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に報告している。その他、定期的に新聞を送付したり変化があれば随時電話し報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回法人でアンケートを出し、結果を提示し改善検討している。また、面会時も聞くようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のカンファレンスや人事考課に伴う面接など機会は設けている。連絡ノートも活用している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や状況変化などある時は必要な職員を確保できるよう調整がなされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>運営者による話し合いがよく行われており必要最低限に抑えられている。</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>コーチング等の研修の機会を積極的に設け、育成するための取り組みを行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流会の機会を設け情報交換などを行いサービスの向上に努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談できる雰囲気作りがなされるよう努め、不定期ではあるが職員交流の場を設けている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>実績や勤務状況など把握できており人事考課を行うことにより各自向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>初回の面接より十分な説明や相談ができるようにし、困っていることがあれば納得してもらえよう対応できている。また、日々十分な会話ができています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時又は電話で普段の様子を伝えたと共に家人の意向など話している。年1回家族会を開催している。アンケートを配布し改善している。		日頃言えないことでも言ってもらいたいため、少人数の職員と入居者の家族との話し合いの場を近々持ちたいと思う。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には医師、ホーム長、相談員を含めて面接を行っており適切なサーにス利用してもらえるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	不安な時は側についておくなど、本人が安心してサービス利用できるよう対応しており家族とも相談して行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物、献立を決めたり料理など、その時々でその人に合った事を教わりながら共に行っている。また、人生の先輩として話の中から学ぶことも多い。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の様子を話し、家族の要望を聞き、共に協力しながら本人を支えている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	日頃の様子を話し家族の要望を聞き、暮らしの情報シートに書き込み、職員全員が理解できるように努めている。本人が言われたことを家族に伝えたり、電話や手紙で良い関係が持続できるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の写真を家人に持ってきてもらい話をしたりしている。また、本人の住居の近所の方の面会もある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事に誘いに行ってもらったり気の合う人同志で散歩や外出を行っている。誕生日にはケーキを作りメッセージを書いて皆でお祝いしたりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院された方には(入居者さんとお見舞い)に行き関係を大切にしている。時には亡くなられた方の家族の面会があり電話をするなど関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話から思いを引き出し聞き取ったことを「私の姿と気持シート」に記入し、職員全員が記入し把握できるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、又は家人から話を聞いたり、写真から知り得た情報を「暮らしの情報用紙」に記入し、職員全員が把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	「1日の生活計画用紙」「心身の情報用紙」日々の「生活行動記録」に記入している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の希望、本人の困っていること(課題)を聞き、又は日頃より話していることをもとにカンファレンスにて介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	その都度、家人に報告すると共に介護計画を立て直している。本人の希望を重視して計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づいた記録、気付き、対応など、日々行動記録表に記録し見直している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状態の変化があっても医師、看護師が併設病院に常時おり対応できるようにしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ピアノコンサートや体操、踊りなど地域のボランティアの方が来られたり公民館利用したり地域資源を活用し協働している。		もっと他の地域資源も活用したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要時には本人に合ったサービスが利用できるよう話し合いはできている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要時には相談できるよう連携とれるようにしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	併設病院にて医療を受けているが本人や家族の希望があれば他の病院に通ったり適切な医療が受けられるよう対応できている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本人、職員が専門医に受診し様子を伝えたり、相談、治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師訪問時、日々の様子を伝えると共に相談し連携を密にししながら支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会にも行っており、早期退院に向けて病院関係者との情報交換も随時行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医を交え、方針を全員で共有している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医師、及び相談員、家族との連携も取れており家族へは日々の状況報告は徹底して行っており、今後の変化に備えて準備し対応についてよく話し合っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>密な情報を提供しており、転居後のダメージを最小限に防ぐように努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人の性格、生活歴の把握に努め、また情報収集スタッフで共有し徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>思いや希望は、その度くみ取り表ししやすいよう支援している。</p>		<p>全員が表出できる事ができないができない方への支援の強化に努めたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースを大切にして過ごしてもらっており、その人らしく暮らしができるように支援している。</p>		<p>利用者全員に日々行き渡るようなかなか困難であるが継続したい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個性を大切にしており、利用者が好む身だしなみを支援しており、希望に応じ出張の理容院や近くの美容院を利用している。		地域との関わりの一つとして大切に継続していく。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に献立を決め、好みの物を取り入れ、一緒に準備、食事、片付けをしている。		一部の方だけではなく、なるべく多くの方が希望の献立が決定できるように支援していく。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品は特に規制しておらず、好みの物を楽しんでもらっている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	さりげなくトイレの声掛けや促しをし、自立を支援している。朝食後にはトイレに行ってもらい排便の習慣を試みている。利用者さんの状態によりPトイレ使用の方もおられます。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間は決めておらず、希望時入浴してもらっている。17時以降は見守りのみで入られる方に入浴してもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者さんのペースで休んでもらっている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	自然な形で家事全般をされており役割作りが出来ている。又その人の意向により散歩に行ったり、レクリエーションに参加し楽しんでもらっている。歌の好きな方がおられ、公民館のコーラスに参加している。		地域の方との交流を図り活気ある生活をしてもらう。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、ほとんど預かりとし、買い物時、本人に手渡し支払いをしてもらっている。本人の希望にて小銭を持っている方もおられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、又、欲しい物、食べたい物など希望があった時は、その度、小まめに買い物に出かけている。		気候の良い季節は出かける事を多く取り入れる。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	車にて近隣の名前や施設に出かけており家族にも声掛けし、共に行っている。		四季に応じ面会時(お花見、紅葉狩り)家族と共に出かける方向へ。一緒に過ごし写真を残している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話があり利用している。支援が必要な方は手助けし電話をかけている。ハガキ、便箋、封筒は随時用意しており、郵便が届いた時は援助しながら返事を書いておられる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会でき気軽に訪問できる雰囲気作りに心掛けている。知人、友人の訪問常時あり。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が理解、認識しており、身体拘束はしていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけず、出入りは自由に出来るようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時様子が見える位置に職員がおり、さりげなく様子を把握している。安全の為、玄関にはセンサーを設置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に合わせて、本人にまかせて裁縫箱、ハサミ等、自室にある方などおられ危険のないよう注意しながら見守っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	全職員、研修参加に取り組んでおり講習で学んだ事は職場で情報交換し事故防止に努めている。		今後も職員で勉強会に取り組む。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	定期的には行ってないが、急変時などは併設の医師、看護師の対応となっている。		定期的に訓練するようにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練、消防訓練などにも積極的に参加している。		法人全体の防災訓練には参加しているがグループホームでの防災訓練も定期的に行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	どんな小さな事でも家族に報告している。色々な情報交換も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	異変に気付いた時は速やかにホーム長や看護部長に相談し外来受診するなど併設病院の協力があり出来ている。		体調不良や異変の見逃しが無いよう、よりいっそうの注意が必要である。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりが医師の指示どおり服薬できる様支援し全員が慎重な取り扱いを行っている。一人ひとり服用している薬を表にしまとめている。薬品リストにより各自把握している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	軽い運動をしてもらったり、食事でも繊維の多いもの便秘予防にいい食材など使用したり、水分補給をしっかりとるようにしている。朝一杯の水を勧める。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの声掛け、入れ歯の手入れ、週一回ポリドント実施し、うがい等の支援、出血、炎症などのチェックを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食べられる量を把握し、そのように盛り付けなどでできおり、食材によっては刻んだりしている。		水分摂取量が不足している時もあるので注意していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、ファイルにまとめてあり実行できている。		対応の手順を忘れないよう定期的に全職員に目を通してもらおうようにしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、フキン、お盆をハイター消毒し、まな板の熱湯消毒等行う。手拭きタオルも調理に入る時は私用しない様心掛けています。料理を常温でずっと置かないようにしている。又、感染委員による水まわりの抜き打ちがある。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに花など植え環境づくりに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホール洗面所、玄関などに季節の花、ドアにも四季折々の飾り物をしたりし季節感を出すように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	エレベーター前、窓際にソファを置き一人で日向ぼっこなどでき、ある時は気の合った者同士のくつろぎの場がある。玄関にはベンチが置いてあり利用ある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人、家族の希望を取り入れ、以前から使っていた家具などを利用して安心してもらう様に工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に常温に注意し、一日数回、居間、各部屋の換気をしている。なお、ホール、居室に湿温計設置、管理調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、浴室、トイレなど手すりを設置したり踏み台を置くなど工夫出来ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	洗濯干し、タタミ、掃除、調理、配膳と個人に合った役割が出来ている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	四季折々の花や畑があり、入居者と一緒に植えたり花を摘んだりし、外にベンチがあり、そこでゆったりと出来るスペースがある。		